

## ■健康の森の管理体制について

遠藤笹窪緑地（遠藤笹窪谷（谷戸））は、「健康の森」に位置する谷戸環境を有する緑地です。周囲約20haは、令和元年度に特別緑地保全地区に指定され、谷戸底は、現在、令和4年度の開園に向けて都市公園を整備中です。

本市では、これまで2回、全市域の緑地を対象に自然環境実態調査を行っており、その調査結果から、遠藤笹窪緑地は、「豊かさ」と「重要性」の2つの視点で行った生態学的評価が高いことが明らかになっています。

### 1. 「藤沢市生物多様性地域戦略」における位置づけ

平成30年6月に策定した「藤沢市生物多様性地域戦略」では、生物多様性の認識不足を最大の危機と捉え、まずは「啓発」が重要とし、重点プログラムとして（仮称）生物多様性センター機能の構築による連携やつながりの創出を位置づけています。

一方、平成23年7月に策定した「ふじさわ緑の基本計画」においては、市内三大谷戸である遠藤笹窪谷、石川丸山谷戸、川名清水谷戸周辺を「緑の保全拠点」、長久保公園を「緑の普及・啓発拠点」として位置づけています。

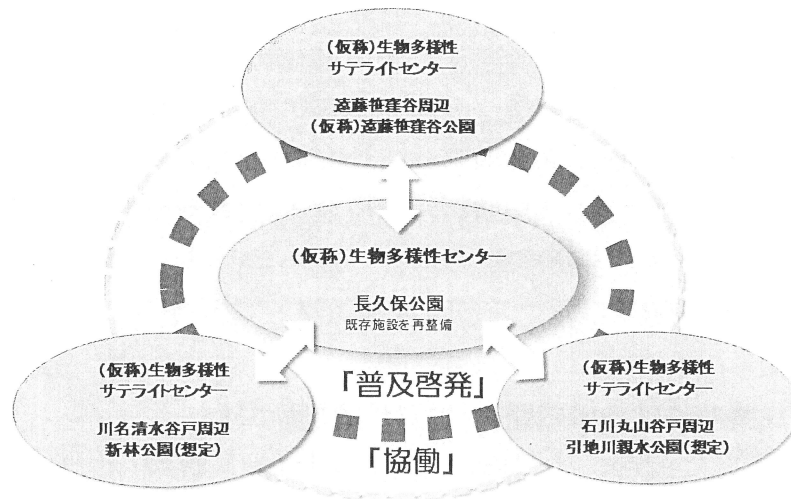
この二つの計画に基づき、今後、生物多様性の普及啓発を進めていくにあたっては、（仮称）生物多様性センター機能を長久保公園に置き、遠藤笹窪谷、石川丸山谷戸、川名清水谷戸周辺は、普及啓発に関する現場での活動を支える（仮称）生物多様性サテライトセンターとして機能させることで、それぞれが役割を担いながら相互に連携し、普及啓発のつながりを創出するものと考えているものです。

### 2. （仮称）生物多様性センター及び同サテライトセンターについて

生物多様性に関する拠点機能の構築の取組は、情報の集約と容易なアクセス環境の創出による「普及啓発」の向上や各活動団体等のつながりの創出による「協働」の実現に寄与する取組です。

そのため「（仮称）生物多様性センター」（長久保公園）は、全ての情報を一元管理し、普及啓発、協働の活動の現場である各サテライトセンター（（仮称）遠藤笹窪谷公園・引地川親水公園・新林公園を想定）と連携を図ることにより、生物多様性に関するマルチパートナーシップが形成され、ひいては豊かな生態系の保全につながると考えているものです。

【(仮称) 生物多様性センター及び同サテライトセンター相関図】



### 3. 遠藤笹窪緑地の管理体制について

遠藤笹窪緑地の谷戸底に開園する公園は、周辺の緑地と一体的に管理することにより、里山景観を保全し、豊かな生態系を守り育てるとともに、市民や事業者、市民活動団体、大学等の研究機関と連携し、①環境保全活動 ②自然観察会 ③学校教育における環境教育の機会の提供等に資する(仮称)生物多様性サテライトセンターの開設を目指しており、この趣旨に則り、令和5年度からは、公園と周囲の緑地を併せて、みどり保全課が管理運営を担う予定です。

以上